

久米島具志川村鳥島方言の文例

野原, 三義

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

6

(開始ページ / Start Page)

109

(終了ページ / End Page)

123

(発行年 / Year)

1981-03-20

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012744>

久米島具志川村鳥島方言の文例

野 原 三 義

以下の調査は国吉文市氏（1921年生）と嘉手
 苅ハツ氏（1915年生）より1979年12月22日～26
 日に行ったものである。

ʔamma: ga ʔndʒu: battʃi ʔijutando: ja: 母さんが 行って来いと 言っていたよ
 ʔja: ga ʔju: ru kutuba お前が 言う 言葉
 ʔanʃiru janʃo: nna そうですか（目上）
 ʔanʃireнна " （同輩）
 ʔwe: ʔijuʃe: bako: de: ja: お前 言うのは うそであるよ
 bako: ʔaimunna うそじゃあないか
 ga がついて ʔwe: ga くお前がくとはなら
 ないという
 ʔwa: ʔijuʃe: nu: ttʃija (後輩へ)
 お前が言うのは 何ですか^(wa)
 ʔwa: には ga く主格くはつかないという
 na: ʔinso: uʃe: nu: janʃo: nna (目上)
 貴方 おっしゃるのは 何でございますか
 ʔwe: mutʃikakufi ʔabo: wa: jansa: それは むつかしくて 私は 分からないよ
 ʔaʔga: wa: jansa: 私がは 分からないサー
 taro: ga suʃe: ʔʔa: wassaʔgane: 太郎がするのはいつも 悪いやり方のよう
 ʔu: dʒi jaassa: だ
 wassantʃiru ʔumuwanrusa: 悪いとしか 思えない
 ʔanʃi takasafi ho: ui ʃitsunu umba:

あんなに高いの 買う 人の いるか
 ʔanʃi natʃibusa: n kufini ʔo: tiru
 あんなに泣き虫の くせに喧嘩ぞして来た
 ʔʔanna: か
 ʔo: tussa: く喧嘩しているよ
 ʔo: untʃi ʃe: tando: wa
 喧嘩しようとしていたよ
 haja: munnu tattʃutassa: 大きい者が 立っていたよ
 tatʃundo: wa: 立っておるよ
 haja: munnu natutassa: 大きい物が なっていたよ
 ʔusagwa: ga ʔino: ʔanʃi ʔuwasai
 ウサグワの着物は あんなに きれいよ
 muno: ウサのような名前を ʔutʃina: na: く沖縄名く
 ja: nuna: く家の名く, warabina: く童名く等
 という。
 ʔatta: ʃittʃa: ja ʔunu me: kaja: 彼 父は この 前から 病
 bjo: ki rentʃundo: wa 気 だそうだ
 mitʃainu ʔutʃina: ta: gajatin tuttai
 三人の 中の 誰かが 取った事
 kutuna: ne: matʃige: na: mu
 には まちがい ない
 ju: ʔinu to: katʃe: ʔaihadʒiro: wa: 四つの 一杯は あるはずだよ
 to: katʃi ʔassa いっぱい あるよ

tʔi:ga ʔuttu ʃi:dʒa: jassa:

一歳が弟兄だ(一歳違いの兄弟)

ʔanu hakuna: ʔitʃusa:

あの 箱に 入っているよ

ma:ʔke: ʔitʃunna:

どこへ 行くのか

ma:ʔke:ja どこへか

ʔugan na:kana: ʔitʃu:i hadʒi

(^{ʔuga})

あれが中に 入っているはず

ʔugana:ka jassa:

こが(これの)中だ

çakuennufi ho:tantʃi ʔijunda:

百円のもの 買ったと いうよ

ʔaʃibi:ga ʔitʃari: 遊びに 行く

ʔaʃibi:ga ʔitʃunna: " 行くか

midʒi kumiga ʔitʃunna

水 汲みに 行くか

hate:ʔke: ʔmmu (^{ʔuti:ga}) ʔitʃunna

畑へ いも 堀りに 行くのか

" " " ʔitʃari:

" " " 行こうか

ʔubaʔ <御飯>, mi:kuwaja: <朝目をさ

ました時に与える食べ物>, çitumutimuʔ <朝

食>, ʔasabaʔ <朝食>, dʒudʒitʃa: <10時

茶。10時頃食べる軽い物>, çiruma: <おや

つ>, ju:baʔ <夕食>, junakamuʔ <夜食>

kuidʒata <黒砂糖>, na:<貴方>, ʔo:uʔ

<けんか>, ʃuwasaʔ <きれい>, to:katʃi

<いっぱい>, ʔitʃuʔ <入っている>, tʃʔa:

<いつも>, çi:bi: <毎日>

以上は国吉文市氏より行った。

以下は嘉手苺ハツ氏より調査したものである。

kwe:tufiga ʔiro: ʃijusanru:wa:

肥えているのが 色は 白いよ

" " ʃujusassa:

" " 白いよ

take: takasaʃiga ʔiro: kuisanru:wa

丈は 高いが 色は 黒い

taki <丈>. kuisaʔ <黒い>. tabaku

<煙草>

he:ku ni:gisa:re:ʃiga naka naka ni:

早く 煮えそうだが なか なか 煮

jansa:

えないさあ

ʔo: <応答のはい(目上に対して)>。同等
や目下には ʔN: という。

hana: saʃufiga mui tuwatti

花は 咲くが みんな 取られて

wantʃanu tutti 子供らが 取って

ʔmbusaʃiga mutʃi ʃaʔ

重いが 持って 来た

kwe:busaʃiga ko:ntaʔ

食いたいが 食わなかった

ʔnamaru kwe:ti ʃʔaʔ

今ぞ 食って 来た

ʔwa:ga kwe:uʔ 豚が 食う

ʔudʒe:ni ʔagijaʃi

おじいさんに さしあげる

ʔagijasuʔ <あげる>。ʔagijaʃaʔ <あ
げた>。ʔwa: <豚>。ʔmmaga <孫>。ʔm-

ma <馬>。ʔudʒe: <おじいさん>。ʔuppa:

<おばあさん>。tuifima <鳥島>

kamaru:nu ʔuja カマルーの 親

mo: ʃi:nu kʔwa モーシーの 子

ʃiru:nu sadʒi チルーの 手拭

ʔme:ʃi ʃukuiʔ 箸 作る

saki numuʔ 酒 飲む

ʔa: ʃija mi:mi: sutanru:wa

私の 顔 見い見い していたよ。
 satʃiθke ʔndʒumba
 先に 行っておきなさい
 mitʃina: ʔitʃe:taθ 道で 会った
 ʃi:nu φa: 木の葉
 tatannu ʔa:ʃi 昼のへり
 nabinu suku 鍋の 底
 haʃi:nu saθ 柱の機
 ʃi:nu na:ka 火の 中
 ja:nu wuʃi 家の後
 tunainu ʃudʒe: 隣のおじさん
 me:nu tuzi utu むかひの 夫婦
 tʃisanu ʃitʃu 近くの 人
 kuʃinu to:kaʃi 口の 一杯
 ʔuinu ʃitʃu 上の 人
 ju:e:nu ka:dʒi 祝の たんび
 ruʃi 〈友〉。ruʃin tʃʔa 〈友の達〉
 ʔitʃuku 〈従兄弟〉。ʔitʃikun tʃʔa 〈従
 兄弟の達〉。ʔakabana: 〈ハイビスカス〉
 tunaʃinu ʃima 渡名喜の島
 ʔaguninu ʃima 栗国の 島
 ʃigutu suʃinu dʒo:ʒi
 仕事 するのが 上手
 tʃinu:nu ne:nu ʔutuʃuʃuta
 昨日の 地震の 恐ろしかった
 " " ʔutuʃuʃutagata:
 " " 恐ろしかったなあ
 kumizimanu ʔmmunu ma:ʃutaigata:
 久米島の 芋の おいしかったことよ
 ʔa: ʔujanu mo:ʃi:ga saθ jo:
 私の 親の モーシーが したよ
 saθ 〈した〉
 ruʃinu nio:ga ʔijutaʃi
 友の ニオーが 言いつた
 ʔaʃire:tʃuʃiga ʔnama ʔo:inruwa:

遊んでいるが 今 けんかするよ
 no:tinu ʔato: so:dʒinu ʔanruwa:
 縫っての 後は 掃除が あるよ
 saki nurinu ʔato: ʔo:iθ ke:nati
 酒 飲んでの 後は 喧嘩にケーなって
 tamuθ watinu ʔato: nu: suθgasu
 薪 割っての 後は 何 するかなあ
 nu:tʃige: ʔijutaʃiga
 何とか 言っていたが
 ʔittʃun tʃige: ʔitʃamuntʃige: tʃi ʔiju-
 行くとか 行かないとか と 言っ
 taʃiga
 ていた
 ʔaguniθke: ʔittʃuntʃige: kiramaθke:
 栗国へ 行くとか 慶良間へ
 ʔitʃamuntʃige: tʃi ʔijutaʃiga
 行ったとか と 言っていた。
 ʔabo: kadikarunu dʒinanruwa:
 私は 嘉手苅の 二男だよ
 ʔanu ʃitʃo: kuniʃoʃinu remba:
 あの 人は 国吉の かな
 kuniʃoʃinu ʔajamumba:
 国吉の じゃあないかなあ
 kuniʃoʃinu renruwa:
 国吉の です
 ʔwe: ʔamanu kʔwa ʔajamunna
 お前は むこうの 子 ですか
 ʔikutʃinu kʔwaja 何歳の 子か
 nidʒu: nu kʔwaruwa: 20歳の 子だよ
 ʔanu ʃitʃu: ma:nu ʃitʃureθgusu
 あの 人は どの 人ですか
 ma:nu ʃitʃurenjanʃoθgasu
 どの 人でございますか
 jambainu ʃitʃu 山原の 人
 suinu ʃitʃu 首里の 人

jamatunu ʧitʃu やまとの 人
 nahanu ʧitʃu 那覇の 人
 muwanu muwa kadʒi
 村の 村かず(村のあるだけ)
 juʃine: ʃi ʃidʒuisaʋ
 雪のように 冷たさ
 naʃinu ʧitʃunu ʔamijamba: kuwasa-
 夏の 人の 浴びないと 暮らされ
 nnaʋ
 ぬ
 ʃitʃibinu ʧitʃunu jurarite: naimunro:
 節日の 人の 道草食ってはいけない
 ja:nu takasa ʔanruwa:
 家の(家と同じくらいの)高さ あるよ
 wata jamme: 腹病気
 ti: raiti 手だれて
 habu uʋ ハブ いる
 tuzinu tʃʔuʋ 妻の 来る
 mum mjanuʋ 物 見える
 munu ni:ʋ 物 煮える
 munu ni:taʃi 物 煮えた
 subanu ʧitʃuga kumaunru:wa
 側の 者が 困るよ
 rampatʃija:nu kʔwanu ʃini u:tantʃi-
 散髪屋の 子が 足 折ったらし
 ge:ruwa:
 いよ
 ʔinnu waeti 犬が 笑った
 ʔinnuʋ waje:unna
 犬のも(がも=でさえも)笑うか
 jinagunʃo: najugatʃina: ʃiʋganu na
 女さえ できるのに 男の できない
 jamuntʃi ʔanna:
 といってあるか
 waibinu mun tʃitʃibusafɪ

童の 物 聞きたさして
 ʔa:ga ʃi 私の 物
 ʔa: hoʋ 私の 本
 wa: ja: 私の 家
 ʔa: ja: とも言えるが、少し狭い意味にな
 り〈私一人の家〉の意になる
 ʔwa:ga ʃi 君の 物
 na:ga ʃi 貴方の 物
 ʔwa: gusaʋ 君の 杖
 na: gusaʋ 貴方の 杖
 ʔanu ʧitʃunu ga ʃi
 あの 人の 物
 ʔaga tʃiʋ 彼の 着物
 ʔa: tʃiʋ 私の 着物
 suina: ʔatantʃui hanaʃi:rentʃuʃi
 首里に あった 話だそうですよ
 nahaʋke: ʔitʃunruwa:
 那覇へ 行くよ
 ʔitʃiba <行け>。ʔuri: <ウリー。うる
 おい>
 ʃuniʋke: nuiʋ 船に 乗る
 hamaʋke: ʔaʃibiga ʔitʃunna:
 浜に 遊びに 行くか
 " " ʔndʒimunna
 " " 行ってみよう
 ʔamana: tuka: uʋ
 むこうに 猫 いる
 我々はマヤーとはいわず tuka: というのだ
 の意で wa: tuka: とおっしゃった
 gamana: suruʋ 洞穴に 住んでいる
 gamana: surunjo: 洞穴に 住んでいる
 よ
 これらの na: の替わりに ʋke: はあまり言わ
 ないとのこと
 hate:na: jaʃe: ulti

畑に 野菜 植えてある

ɸuna: jimba ここに 坐われ

" jinso:mba

ここに お坐わりなさい

ɸuma <ここ>。ʔama <むこう>。ho:

ʔama <ずっと むこう>

mitʃina: nintinru:wa 道に 寝ているよ

jamatuθke ʔiʃuθ やまとへ 行く

mutuiʃimaθke ʔndʒaθ 硫黄島 島へ行った

久米島具志川村鳥島は奄美の徳之島の西方にある硫黄島からの移住である。

ɕitʃigwatʃi so:ɡwatʃine: ja:θke: ke:

盆 正月には 家に 帰え

tu:wa:

って来い

目上に対しては ke:ti ʔuwaruwa: <帰っていらっしやい>という。「首里、おわる、てたこか」というオモロの「おわる」の直系であろう

ʔamaθke: nagijuθ むこうへ 投げる

tuiʃimaθke: ʔndʒanruwa:

鳥島へ 行ったよ

ʃigutuθke: ʔndʒθ 仕事に 行った

ʃigutuθke: ʔndʒi wa:munruwa:

仕事に 行って いない

ʔweθke naosuθ お前に 教える

ɕitʃuni kuitaʃi 人に あげたよ

mi:na: ʔibiʒa ʔndʒitunru:wa:

目に ものもらい でているよ

ガキしたから<卑しいことをしたから> ʔi

biʒaが出たなどと言われた

hamaikuʃi <かしましい>

he:ku ʃuʃiθke: kujunjo:

早く 来るのに やるよ

he:ku ʔwamba na:ni kuinjo:

早く いらっしやったら 貴方に やるよ

ɸu:ke ʔwamba ここに いらっしやい

ʔamaθke: ʔwamba あちらへいらっしやい

ɸe:ku ʔiʃiʒa 早く 行け

ʔamaθke: ʔiʃiʒa むこうへ 行け

bako: <うそ>

ɸudʒe: ni no:nnuθ

おじいさんに 叱られる

ʔabo: me: ndʒui

私は 前に 行ってきます

wa:ga ʃi ru:wa 私達の 者 だ

ʔu:ga ʃi <君らの物>。ʔwa:ga ʃi <君の物>

ɸunu kʷa: ʔujaθke: nitʃi

この 子は 親に 似ている

wa:ja: gakkō:θke: ʃikasaθ

私達家 学校に 近い

mi:ʃiθke: wajuθ 三つに 分ける

mi:ʃi ti:ʃi 3 分の 1

ju:ʃi ti:ʃi 4 分の 1

hambuθ <半分>

ma:na: na:θkutu re:ʃi

どこにも 無いこと です

na:hana: ʔatai hanaʃi

那覇に あった 話

he:ku kaja: 早く から

nikka kaja: 遅く から

ʔanʃi he:ku kaja: あんなに早く から

kutte:ma gama ʃijare: 少し ちょうだい

tuka:gama <猫ガマ。-gamaは指小辞。沖縄方言は普通-gwa:である>

ma:nu kʷagama: ge: どの 子 か

kutte:ma kaja: 小さい時 から

ʔamaθka: ʃuʃe: tajee:

むこうから 来るのは 誰だ

?we: taija 君は だれか
 ʧitimiti kaja: ju: neimari hataitʃi
 朝から 晩まで 働く
 hataitʃi ʧitʃu 働く人
 ʧitimiti kaja: ?abite:tʃuʃi
 朝から わめいている
 ?atuθka: ʃuθkina: satʃi natumba
 後から 来るから 先 になっておけ
 tʃufui natikaja: nu: najunna
 年寄 になってから 何 できるか
 ʃiʃiθka: ko:i: 肉から 食べようねえ
 ʃunu ʃiʃi ko:i: この肉 食べようねえ
 ?iju 〈魚〉
 satʃuʃiθka: tumba
 咲いているのから 取れ
 sake: ʃumiθka: ʃukuiθ
 酒は 米から 作る
 sato: ja uθʒiθka: ʃukuiθ
 砂糖は 甘蔗で 作る
 jamatuθke: nu:ka: ?itʃuna
 大和へ 何から 行かか
 ʃuniθka:ru:wa: 船からだよ
 jambaiʃin naθka: tamum mutʃi ʃu:tʃuʃi
 山原船 で 薪 持って来てある
 ʃuppa: matʃiθka: ?atʃutanru:wa:
 おばあさん 町から 歩いていたよ
 ʃudʒe: hamaθka: ?atʃutanru:wa:
 おじいさん 浜から 歩いていたよ
 tiraθka: ?akki:ne: ʧi:ruku ?ijunruwa:
 太陽から 歩くと 日射病 入るよ
 ʃiʃe: ?anranu meθka: ho:rijo:
 肉は 油の 所から 買えよ
 me: 〈前〉。wu:ʃi 〈後〉。jan ʃi:〈家
 の後〉。?wa:nu ja: 〈豚の家〉。?uʃi
 〈白〉

?iθkaja: tuka:kaja ʃikane:ti
 犬から 猫から 飼っている
 muʃi ?aga suimu ?amba: re:θʒiru:wa
 もし あれが するならば 大変だよ
 jumbui kuiʃini wa:tanru:wa
 呼び 声で 分かったのだよ
 mirikiθgu: ʃini ?anra:gi jaʃuθ
 小麦粉 で てんぷら やく
 dai ʃini ?me:ʃi ʃukuwatʃuʃi
 竹で 箸 作られている
 ?we:ʃini ʃu:ʃi ʃiri
 お前で 注意しなさい
 ʃibui jari nintuʃi
 頭 痛くて 寝ているよ
 ʃeinentʃanu urute:tʃuʃi
 青年達が 踊っている
 ni:ʃe:ta: urute:tʃuʃi
 青年達 踊っている
 ʃunu ja:ja ?ikkagetsu ʃini tʃuku-
 この 家は 一月で 作ったそう
 tantʃuʃi
 だよ
 saθkagetsu na: nairu sui
 三月 で できぞ する
 nu:n nu:n najuʃe: (るだろう) ?ajaθ
 何も 何も できるものではない
 nu:ʃinin nu:ʃinin najuʃe ?ajaθ
 何でも 何でも できるものではない
 nu:n na:θ 何も ない
 ?amana: nu: ?airu sumba
 むこうで 何か ありぞ するか
 ?umina: " " "
 海 で " " "
 ja:na: " " "
 家 で

ja:na: nu: ?airu sutamba
 家 で 何か あったのかねえ
 ci:ti <干瀬。kifi ともいう>。ci:tinami
 <干瀬の所にたつ白波>。?ino: <ラグーン>。
 fuka <外海>。fumiui <珊瑚礁の中のこも
 り>
 furi fini hatfi 筆で 書く
 ci:kufi jasurunruwa:
 寒くて 休んでるよ
 " jasura:
 " 休んだ (聞かす言葉)
 cisamagai ga sui fui tfinba
 寒さ曲がりをしているのか これ着よ
 ci:sa ga ?ai fui tfinba
 寒さが有るのか これ 着よ
 n:na fini ?o:ti tfa:
 皆 で 喧嘩して来た
 n:na fini ?o:ti tfa:
 皆で 喧嘩して来た
 gunitfi fini nairu sui
 5日 で なりぞ する
 nu: fini n nu:finin tu:wamunruwa:
 何 で も 何でも(では)通らないよ
 kadikarunu me:ka: tu:ti ma:dza:ke:
 嘉手苅の 前から 通って 真謝へ
 ?ndza:fi
 行った
 ?ama:ka: ci:tu t?uugane: susa:
 むこうから 人 来るようだ
 ma:ka:ga tu:ti ?ndzin fimui wa:
 どこからが通って 行ってよいか分から
 ja:
 ん
 ci:funu ja:bika: migo:ti ?afire:tufi
 人の 家ばかり 回って 遊んでいる

?ama fuma bika: ?afiri ja:ke: ku:
 あちこちばかり遊んで家に帰って来
 tu:
 ない
 ja:na: wunjo: 家に いるよ
 fumana: ?anjo: ここにあるよ
 hate:na: jafe: ?uiti ?anru:wa:
 畑に 野菜 植えて ある
 jamammu <山芋>。kute:ma <少し>
 mitfina: ninti 道に 寝た
 " nintufi 道に 寝ている
 ?we:ke: kuinjo: お前に やるよ
 ci:funi kuita:fi 人にやった
 ci:tfa:ni finasatti
 お父さんに 殴られた
 ci:tfa:ni no:tti お父さんに 怒られた
 ne:gu:fi sutanruwa: 小言 していたよ
 kundzo: ?ndzittanru:wa: 怒っていたよ
 fumi:utanru:wa: 誉めていたよ
 ?inni ku:watti 犬に かまれた
 fonu k?wa: ?uja:ke: nitfi
 この 子は 親に 似ている
 wantfa:ke: na:uugane:fi naofi
 子供に 分かるように 教えろ
 san ?itfi:ke: waimba
 3 1(3分の1)に 分けよ
 ju:tfi:ke: waimba 4つに 分けよ
 rukuzini fuiti 6時に 起きた
 kute:ma suini finasatti
 小さい 時に 殴られた
 nintui he:kana: ?ndzi uwa:
 寝ている間に 行って いない
 haitinu sa:ugwatfine: ni:bitfiru:wa
 明けての 3月には 結婚するよ
 jani <来年>。fudzu <去年>。wutu-

ʃi <今年>。mitʃunati <一昨年>

suːdʒineː nuː tʃitʃi ʔitʃuŋgeːsu
お祝いには 何 着て 行くか (ʃi)

" " " ʔitʃuːjeː

" " " 行くかね

ʔamini nriti jaːŋkeː keːti

雨に濡れて 家に 帰った

çitʃuigaʃinaː ʔanʃi ʔijuʃi

知っているくせに そう いうよ

jiŋga jinagu 男 女 (並列)

tui ʔaçiru 鶏 あひる

maŋkwaːn ʃibuin reːkuniŋ hoːti

南瓜も 冬瓜も 大根も 買って来

tʃaʃi

た

ʔamanaːniŋ ʔunaːnim manri

あっちにも こっちにも 沢山あるよ

nagi tʃimaŋkeː muŋ ʔiʃi

縦横(でたらめ)に 物 言う

taroːjakan dʒiroːgaru rikijaː

太郎より 次郎がぞ 出来ぶつ

ʃiʃijakaŋ ʔijoː takasaŋ

肉より 魚は 高い

çuijakaŋ ʔairu ʔuisanruwaː

これより あれぞ 古いよ

ʔujujakan naʃiru maʃi

冬より 夏ぞ よい

hoːiʃijakaŋ tʃukuifeː maʃi

買うのより 作るのは よい

ʔweːjakaŋ ʔukaneː waːmunruwaː

お前より 外には いない

ʔaijakaŋ ʔussaʃeː uwaŋhaʒiruwaː

あれより 大きいのは いないだろう

ʔanjakaŋ ʔukaneː nauʃeː uwamunru-

私より 外には 出来るのは いない

waː

よ

taroːtu niːbiʃi saŋ

太郎と 結婚 した

dʒiroːtu ʔoːtaŋ 次郎と喧嘩した

ruʃitu ʔndʒaŋ 友達と 行った

ʔweːtoː najaŋ お前とは 出来ない

ŋkaʃitoː juːnu kawati

昔とは 世の 変って

tusuitu junumuŋ 年寄と 同じ

hainaŋ çitʃunu waibitu ʔoːtitʃantʃuʃi

大きい 人の 童と喧嘩してきたそうだ

kuʃibikuːwaːtu ʔasasaː かまきりと蟬

nabitu hama 鍋と釜。hama <鎌>

ʔuni tu kaːtu nati 骨と 皮なっている

ʃiʃitu ʔijutu nuː maʃija

肉と 魚と どっちがよいか

çitimiti kweːjuʃitu juːneː kweːju-

朝 食うのと 晩 食うのと

ʃitu nuːmaʃijaː

どちらが よいか

heːbeːtu <早早と>。kuːguːtu <濃
濃と>

hajaːmun tʃukuruwaː

大きい の 作りなさい

kuteːma tʃukuruwaː

小さい の 作りなさい

jawaitʔaːma niruwa

やわらかく 煮なさい

moːkitiŋ ʔwaːsuːsaŋ

儲けても おわしきれない

tʃin juguʃi bikaːʃi ʔwaːsuːsaŋ

着物 汚しばかりして おわしきれない

maːtʃiŋ gaɖʒimaim miːtuŋ

松も ガジマルも 生えている

?ittʃufiremba: ?itʃanfiremba:
 行くのか 行かんのか
 ?attʃufiremba: ?akkanfiremba:
 歩くのか 歩かないのか
 ?ariθ ɸuriθ ?itʃunakufi
 あれも これも 忙しい
 tabiθke ga ?ndʒai miannanfi
 旅 へ が 行ったら見えなくなっている
 ʃi:biʃi: ga jatai
 すべきであったのだろうか
 kwe:busa ga sutai
 食べたそうが していたら
 ?o:busa ga ?atai
 けんかしたそうにが していたら
 ɕi:kufi uikanti:ʃi
 寒くて 起きかねている
 (h)atʃi ga ui 書いているのだろうか
 dʒi:ga (h) attʃe:ʃui
 字を書いているのなあ
 ?attʃa: ?attʃa: ʃe:ʃufi
 歩き 歩き しているよ
 ma:ja <どこか> . ʃa:ja <どうか> .
 nu:wa <何か> . taija <誰か> . ?ikutʃija
 <いくつ> . ʃassa ja <いくら> . ?itʃi-
 ja <いつ> . ma:nuwa <どこの>
 ʃassa bika:ja いくらぐらいか
 ʃa:ʃi suθgasu どうしようかね
 " suθge:ja: "
 ʃa:ʃi ʃimba ga najui
 どうして したら できるかなあ
 ʃa:ʃi ʃimba naumba:
 どうして したら できるかなあ
 nu:wa kʷa nakasuʃe:
 どうして 子供 泣かすか
 maθke: ?ittʃunna: どこへ 行くか

maθke:ja: どこへか
 dʒi:ga (h) attʃui
 字を書いているのだろうか
 taigaga ʃuwasai 誰かが 美しい
 (誰がこそ 美しいのだろうか)
 kaθge:tiga wui 考えてが いるのか
 " ?wajui
 考えてが いらっしゃるのかな
 ?wai ga ru sai
 お前 が ぞ してある
 ?we: saʃija: お前が したなあ
 na:ga ru ʃinso:ʃai
 貴方 が ぞ やってある
 kusanuru mi:tui 草のぞ 生えている
 kusanu mi:ti 草の(が) 生えている
 kusa mi:ti 草 生えている
 ʃike:ʃiru jai ɕiti:ʃe: ?ajaθ
 使うのぞである 捨てるのは でない
 dʒa:we:ti:we: <困ったこと>
 ?ai ga ru sui あれ が ぞ してある
 ?an sui kutu あんな こと
 han sui kutu こんな こと
 dʒi:ru (h) atʃui 字 ぞ 書く
 ?ai ga ru ʃuwasai あれ が ぞ 美し
 い
 ɕi:kufiru magatui 寒くてぞ曲がってい
 る
 suiθke:ru ?ittʃunruwa:
 首里へぞ 行くのだよ
 suiθke: ?ittʃunruwa: 首里へ 行くのだ
 よ
 ?mmuru kwe:te:ʃui いもぞ 食べてい
 る
 ʃa:ru nure:ʃui 茶ぞ 飲んでいる
 ?namaru nuri ʃai , ʃimunjo:

今ぞ 飲んで きた , いいさ

?aʃibiru sunruwa: 遊んでぞ いるんだ
よ

" ʃe:ʃunruwa: 遊んでぞ いる
んだよ

"

?amana: ?aʃire:ʃuʃi

むこうに 遊んでいる

?a: ga ʃi ru jamba:

私 の 物 ぞ であるか

taro:ru jatamba: 太郎ぞであったかな

taro: re:ʔamba: "

çidʒikufi 具合が悪い

çidʒaira:sanu "

?wa: ga: najamun jo:

お前がは できないよ

?we: ga: <君 は>とも言えるが, 最近の
言葉かという

?u: ga: najamunjo:

君らがは できないよ

?ai ga: najunjo: あれがは できるよ

?atta: ga: najunjo: あれ達がはできる
よ

" " nairu sui

あれ達がは できぞ する

?ami ɸuiθ 雨 降る

?ami ɸuwamunjo: 雨 降らないよ (?a
mino: <雨のは>とは言えないという)

?inno: kuwamunjo: 犬のは かまない

?inno: ku:iʃiga tuka:no:ku:wamunjo:

犬のは かむが 猫のは かまないよ

?inno: kwe:jufiga tuka:no:ko:munjo:

犬のは かむが 猫のは 食べないよ

wu:dʒe: ?amasaθ 砂糖きびは 甘い

huro: haja:muθ 丈は 大きい

ʃibui <頭>。ʃimui <巢守>。?usu:ti
<卵をかかえる>。nu:ru <祝女>。ʃi:ru:
<黄色>。kuru: <黒>。tu:ru <灯火>。
ɸuja <ほや>。tukuma <所>。jiʃui
tukuma <坐っている所>。koma<独楽>。
ru: <胴>。kaida nu jo:isaigata: <体
が弱い>。ʃira <面>。?ura <裏>。wai
<蕪>。su:ra <砂糖きびの先端部のことを
wu:ʒinu su:ra という>。guʒija <鯨>。
waibi <童>

ʃiguto: he:ku natanjo:

仕事は 早く できたよ

çijo: ɸumitʃuʃiga juija çi:kufi

昼は 暑いが 夜は 寒い

na:be:ja:ja ma:safiga go:ja:ja ndʒa

糸瓜は おいしいが 苦瓜は 苦

kufi

い

jo:san ?ai ʃibuin jammui nu:n na

ひもじいし 頭も 痛いし 何も でき

jaθ

ぬ

ka:gin takiɸurun ?uʃati ʃuwakufi

影も 丈程も つり合って 美しい

he:ku ɸuiri , ?we:ja ?asanifi

早く 起きろ お前は 朝寝して

janawaibe: , naka naka ɸu:munru:wa:

悪 童は, なかなか 来ないよ

ho:iʃijakan ʃukuife: mafiruwa:

買うのより 作るのは ましぞ

?injakan tuka:mafi 犬より 猫は ま

し

kwe:jufiru mafi 食うのぞ まし

kwe:ife: mafi 食うのは まし

nubuiſe: mafi 寝るのは まし

ci:dʒa:ja hadʒafi ʃifiru mafire:
 山羊は 臭さして 肉ぞ ましだよ
 tʃa:ʔit'o: bai ʔattʃi:ne: raitʃi:je:
 さっさと 歩くと 疲れるから
 jontana: ʔattʃufe: mafi
 ゆっくり 歩くのは まし
 ʔifudʒitin ja:ja ʔndʒu:ba
 急いでいても 家は 行ってこい
 na:ha: ma:ja 那覇は どこか
 ʔa , ʔwe: taro:ja ʔajamunna
 あ、お前 太郎は あらぬか
 wa:jamuθ <分からない>。wa:jamuθjo:
 <分からないよ>。ʃijamuθ <しない>
 suno: ʃijamunna 損は でないか
 nu:ja ʔwa:ga ja 何は お前のか
 ma:ja kiramaja どこは 慶良間島か
 habi <紙> — habe: <紙は>
 ʔu:bi <帯> — ʔu:be: <帯は>
 ʔnama <今> — ʔnama: <今は>
 ʃitʃa <舌> — ʃitʃa: <舌は>
 tʃimu <肝> — tʃimo: <肝は>
 ʃi:gu <小刀> — ʃi:go: <小刀は>
 tʃimo: na:munna 肝は ないか
 ʃi: go: ma:na: ʔanna 小刀はどこに有る
 か
 haθgimba <おんぶしなさい>
 haθgja:re: <おんぶしよう>
 to:to: ʔa: uʃiθke: ʔutʃikimba
 さあ 私の 背中に おんぶさせなさい
 ʃuju <冬>。ʃujune: ʃi:kufi 冬には
 寒い
 gadʒanni sasatti 蚊に さされた
 gadʒano: uwamuθ 蚊は いない
 tʃiθ <着物>。tʃino: na:muθ 着物はな
 い

kui <声>。ʃe:gwa: <えび>
 ʃe:gwa:ja ʔuwamunna えびは いない
 か
 ʃe:gama <えびの小さいもの>
 ʃe:nu kʔwagama: <小えび>
 kumu <雲> — kumo: <雲は>
 ko:tu <hand> — ko:to: <handは>
 muθ <門>。ja:nu dzo: <門>
 dʒu: <尾>。dʒu:ja ma:na: 尾は ど
 (wa)
 何か
 tʔai <二人>
 tʔai wamumba: 二人は いないかね
 tʃui <一人>。tʔi: <一つ>。tʔa:tʃi
 <二つ>。mi:tʃi <三つ>
 sanʃiθ <三味線>。sanʃino: <三味線は>。
 sanʃinja <三味線は>とも
 dʒiθ <銭> — dʒino: <銭は>
 ʔwe: gan wa:wunna お前がも 分かる
 か
 ʔwe:nin wa:ja:tʔammuntʃin ʔanna
 お前にも 分かることか あるか
 tai gan wa:jaθ 誰がも 分からない
 tai jatin wa:jaθ 誰であっても分から
 ない
 kusa nuθ ko:nunno:
 草のも 食べられるか (nao:)
 kusa: ko:nnamunjo:
 草は 食べられるか
 ha:nun jammun nao: 歯のも 痛いか
 (na:)
 ha:gan jammun nao: 歯がも 痛いか
 ʃitʃa:ja ʃu:n ʃigutuθke: ʔndʒafi
 父さんは 今日も 仕事に 行った
 tuʃi tutti tʃibuiθ hagiti
 歳 取って 頭も はげている
 go:ja:n na:be:ja:n nati

苦瓜も 糸瓜も なっている
 ʔndʒin ʔitʃantin ʃimmunjɔː
 行っても 行かなくても いいよ
 ʃibuin jari watan jari ʃaːn najaʊ
 頭も痛いし 腹も痛いし どうもできない
 kweːtiʊ kweːtin naː ʔajan
 食っても食っても もういいといっている
 ʔnamiʊ kweːjunna
 もっと 食べるか
 nuːniʊ ʃuinin natʃi
 何にも かににも 泣く
 dʒoːʊ ʃukan ʔndʒijaʊ 門も 外も 出
 ない
 dʒoːnu " " 門の " 出
 ない
 jaːn nageːsui ʔami jataʊ
 家も 流す 雨 だった
 ʃumitʃin sui hadʒin naːn turiti
 ほめきもするし風も ない 風だ
 ʔakikkwaː sattu tufuiʊkeː maiti
 走り勝負したら 年寄に 負けた
 ʔikusanu kutoː tain waːtunraː
 戦の 事は 誰も 分かっているよ
 hajasufi remba ʃassan ʔanjoː
 貸すの あれば (teːrakaː) あるよ
 hamati tumeːtaʃiga maːnan uwamun-
 一生懸命探したが どこにも いないよ
 joː
 jaːnaː teːn uwamuʊ
 家に 誰も いない
 teː は普通は tai。
 ʔuga wataʊkeː ʔiːgata
 あれの 腹に 入る事よ
 ʔanʃin ʔijanufija そんなにも 言うよ
 dʒiʊ <銭>。dʒinun naːʊ 銭も ない

ʔittʃiʊ <一斤>。ʔittʃinun naːʊ 一斤
 もない
 ʔabu <私>。ʔabuniʊ <私にも>。ʔa-
 boː <私は>。ʔoː <はい(敬)>。oːi
 <返事のはい>。oː <年寄への返事>。ʔa
 ma kuma <あちこち>
 ʔaboː ʔitʃamba 私は 行く
 ʔabuniʊ ʔitʃunjoː 私も 行くよ
 jinagun najugaʃiːnaː jiʊganu naja
 女も できるのに 男の できない
 muntʃi ʔanna
 と あるか
 ʔweːgantʃoː najugaʃina ʔaʊga naja-
 お前がさえ できるのに 私が できる
 muntʃi ʔanna
 い といって あるか
 jinaguntʃoː najugaʃiːnaː jiʊganu na-
 女さえ できるのに 男の でき
 jamuntʃi ʔanna
 ないといって あるか
 attʃufin najamunnaː
 書くのも できないか
 ʔattʃufin najamunnaː
 歩くのも できないか
 ʔattʃufintʃoː najamunnaː
 歩くのさえ できないか
 ʔweːga ʔittʃuːsunna maːntʃoː jambaja
 お前が 行ききれるか どこさえ だから
 tukantʃoː uwamba ʔnaminun uwaruʊ
 10日さえいないのか もっと いなさい
 ittʃiʊ <一斤>。ʔittʃintʃoː naːʊ <一斤>
 さえない>
 dʒiʊ <銭>
 dʒintʃoː naːranrennoː 金さえ ないのか
 ʔweː dʒin naːranrennaː

お前 金 ないのかあ
 ma:naga hadʒimjattui mjannin saʋ
 どこに 直されているのか 見えもしない
 ʔai ʔuʋkaʃi:ne: tara: juisamunruwa:
 あれ 動かしたら ただは 許さんぞ
 ʔwa:ga ʔitʃife:ka ʃimba naunruwa:
 お前が 行きさえ したら できるよ
 kaʋgeʃe:ka ʃimba 考えさえ したら
 ʔitʃife:ka ʃimba 行きさえ したら

 ʔijufi mjannummun $\left\{ \begin{array}{l} \text{jamba} \\ \text{ʔamba} \\ \text{remba} \end{array} \right\}$ ʔe:dʒi
 入るの 見たら 合図しな
 ʃiruwa
 さい
 mju:mu ʔamba <見たら> .mi:ne: <見
 たら>
 tatui ʔo:ti jatin ʔanʃimare: mikkwa-
 たとえ喧嘩していても そんなにまでは に
 sa ʃinna
 くさ するな
 tatui nintutin wa:tuttaiʃʃamunna
 たとえ 寝ていても 分かっていたでしょう
 ʔa: <私> . ʔagga <私が> . ʔabo:
 <私は>
 go: ja: natunna, go: ja: rukuro: ʔa
 苦瓜なっているか、 苦瓜どころは でな
 jamunruʔwa: , naimunnu kaʒi kaʒi natun-
 いよ , 生り物の 数 数 なっている
 ruwa:
 よ
 ʔa: tʔi: numatʃikunso:wamumba:
 お茶 一つ 飲ましてください
 ʔa: tʔi: ʔi ʔjunna: hamme: kwe: ti
 ʔitʃiba

茶 一つと 言うか 飯 食って 行け
 tuwaʔiʋ kuwamunna:
 とらしても くないか
 tuwasui ʔataija najuisamunna
 取らす くらいは できるよ
 ʃiʋke: nubuiʃintʃo: najamunna
 木に 登るのさえ できないか
 上の nʃo: の代わりに ʃe:ka を用いること
 はできないとのこと
 ʔuidʒiʃe:ka najumu ʔamba
 泳ぎさえ できれば
 ʔuidʒintʃo: najutambaja:, ʔuidʒutaimu-
 泳ぎさえ できたらなあ、 泳ぎよったの
 no:
 に
 ʔaike:gutu majunna
 あれくらいに 負けるか
 ʔaiʋke:gutu majunna
 あれにくらい 負けるか
 ʔitʃimufire:ʃiga so:ʔitʃo:ʋ
 生き物むのだが 性が入っている
 naku naku ru sui 泣く泣く ぞ する
 nihe:jabitanro: ありがとうございました
 ko: ʔusagitaʋkina: ti: ʔa:ʃiba
 線香 お供えしたから 手 合わせよ
 nukuba:ti <温くなって> . ʔai <あれ>
 jutai bika: jatai hadʒi
 4人ばかり であった はず
 ʔasabika: ʔndʒiti 腫物ばかり 出ている
 ʃitʃi: tʃa:bika: nuri
 しょっちゅう 茶ばかり 飲んでる
 ʔaʃibibika:ʃi ʋurimun naunruwa:
 遊びばかりして 狂者 なるよ
 ru:nu numuʃibika: ʔitti ʔa:gafe: ʔn-
 自分の飲むのばかり入れて 私の物は 入

raraθ
 れない
 natʃiθke: natattu go:ja: na:be:ja:bi
 夏になったら 苦瓜 糸瓜ばかり
 ke: kwe:ti
 食べている
 sakinu su:ki 酒の肴
 ʔmmu tatin ʔndʃijuntʃi ʔumutʔa:
 いも 沢山 出ると 思った
 jana:bika: nu:ti 悪いのばかり残っている
 ʃumabika: ʔajan wu:n ʃutanna:
 ここばかり でない 君らにも来ていたか
 nitta:θ <貴方がたにも>. ʔantʃi: <私
 一人>. ʔwentʃi <お前一人>
 ʔainantʃi: nu:ʃi ja:ban ʃimitina
 あれ一人 残して 留守番 させてか
 sambatʃi bika: ha:ui ʔwa:re:tan
 三百斤ばかり かかる 豚だったそう
 ʃuwa:
 だ
 tuʃiθ gudʒu:bika: re:tai hadʒi
 歳も 50ばかり だった はず
 sugu tumejannuθ すぐ 探せる
 tumemba tume:tai mari re:
 探せば 探した まで だ
 上の mari の代りに nta:na: は使えない
 ʃi:ɖʒi:ja gudʒi mari hataitʃi
 平常は 5時まで^(ntana:) 働く
 ʔatʃa:mare: matʃi kumba
 明日までは^(ntana:) 待って くれ
 " matʃi kunso:mba
 " 待って ください
 ʔitʃi mari matʃiθ ʃu:θ
 いつまで^(ntana:) 待っても 来ない
 ʃinu: gogokara matʃutanru:wa:

昨日 午後から 待っていたよ
 mitʃi ʔatʃui ʃitʃuθke:nin rambo: ʃi
 道 歩く 人にも 乱暴 して
 ʔuttunin nake:sannunna:
 弟にも 泣かされる
 ʔikusaju:ja nu:mariθ kwe:taθ
 戦世は 何までも 食べた
 mari の代りに ntana: は言えないと言う
 ʃuθka: ʔamanta:na: ʔitʃuθ
 ここから むこうまで 行く
 mari より nta:na: の方がよいという。
 mari の i は i に近く聞こえる
 ʃitimiti kaja juintana: hataitʃi
 朝から 晩まで 働く
 nuθkaja: nu:mari mutʃi ʔitʃattʃi
 何から 何まで 待って 行ってあるさ
 nuθkaja: の代りに nu:ka:でもよい
 atʃiba atʃimariru jai
 書けば 書いたまでぞ である
 mari の代りに nta:na: は使わない
 ʔitʃiba ʔitʃimariru jai
 行けば 行ったまでぞ である
 mari の代りに nta:na: は使わない
 dʒi: attʃuntana: ha:ʃiba
 字 書くまで 借してくれ
 ʔikuʃina: ʔataju ikuʃʃʃ 当たる
 か
 mi:ʃina: ʔatajunjo: 3つずつ 当たる
 よ
 kwe:busaimuθ ʔamba ʃassaθ kwe:mba
 食いたければ いくらでも 食え
 ʔagi:busaimuθ ʔamba ʃassaθ ʔagi:n
 召し上がりたければ いくらでも召し上
 so:mba
 がれ

takennaŋ kwe:ti ʔnaminuŋ kwe:jun
 二回ずつ 食って もっと 食うの
 na:
 か
 mi:tʃibike:ja ʔatajui hadʒi
 三つばかりは 当たる はず
 te:rakana muʃi:ne: raitʃijunruwa:
 沢山ずつ 持つと 疲れるよ
 kutemana: mutʃi ʔitʃiwa
 少しずつ 持って 行け
 kutemana: kage:ti tuwaji
 少しずつ 考えて とらせ
 ʃitʃi:na: hataitʃu:samuŋjo
 しょっちゅうは働ききれないよ
 taro: ne:ʃe: taiŋ hataitʃu:saŋ
 太郎ようには 誰も 働けない
 taro: ne:ʃe: hane:ʃe: te:n ʔuwamu-
 太郎ように 働けるのは 誰も い
 njo:
 ないよ
 ʃassa ʃurimun jatin ʔujanu ʃija:
 いくら 狂者でも 親の顔は分かりぞ
 wa:ru sui
 する
 ʃija 〈面〉。前には ʃira と言っていたが、
 今度は ʃija という
 ʃassa wuitin ja:ja wa:ru sui
 いくら 酔っても 家は 分かりぞ する
 ʔatu ʃassabika: nu:tu:we:
 あと どのくらい 残っているか
 ʃa:nre: numiba: 茶など 飲め
 ʃa:n numiba: 茶も 飲め
 tabakunre: ʃukiba 煙草など 吹け
 tabakuŋ " 煙草も "
 ʔaganre: dʒo:i ʃijamunjo:

私がなど 全然 知らないよ
 nu: konnufe: na:munna
 何 食うのは ないか
 nadʒa ʃudʒa manrunro:
 あれやこれや 沢山あるよ
 kwe: atamiti ma:ŋke:ja
 鰻 かついで どこへか
 taro:nre: suguine: tara: juisamunru-
 太郎など 殴ると 只は 許さない
 wa:
 ぞ
 saki numi:ne: jamaʃiriti
 酒 飲むと 困ったことになる
 dʒiŋ 〈金〉。dʒinunre: 〈金など〉
 ʔmma 〈馬〉。ʔuʃi 〈牛〉。ʔwa: 〈豚〉
 ʃi:dʒa 〈山羊〉(be: be:と鳴く)。tui
 〈鳥〉。ja:ru: 〈守宮〉。ʃitimitimuŋ 〈朝
 食〉。ʔasabaŋ 〈昼食〉。ju:baŋ 〈夕飯〉。
 ʃiruma: 〈おやつ〉
 以上、嘉手苅ハツさんより